

素晴らしき先輩

3月29日（水）付「秋田魁新報」の“追想メモリアル”に本校OBである植村直人さんが紹介されました。「大曲東高校時代の卒業生でよく覚えています。競輪選手になってからの活躍を新聞でうれしく見ていました。在学中も人柄の良い、素晴らしい生徒でした。」と当時授業を担当された佐藤静子先生（本校旧職員）は語ってくださいました。

植村さんの御冥福を心よりお祈り申し上げます。

元競輪選手・鉄道写真家
植村 直人さん
えむと
昨年12月29日、62歳で死去 北秋田市



戒名は「直証院鉄輪聖道居士」。自転車と鉄道を愛した62年間が「輪」の一字に宿る。さいたま市（旧大宮市）出身で、後に大仙市（旧大曲市）に引っ越した。競輪選手の父を持ち、自身も高校卒業後、1979年から競輪選手に。2012年の引退までに452勝を挙げた。

「一言で言えば剛脚の選手だった。かつて競い合った競輪選手の佐藤拓哉さん（54）曰く

生涯愛した二つの「輪」

内陸線にも足しげく通った。競輪選手としてのキャリアを終えた翌13年、内陸線沿線住民の温かさに魅力を感じて北秋田市に移住。四季の移ろいと列車をカメラに収めるようになった。

自転車と鉄道を愛した植村直人さん（2019年11月）（美智子さん提供）

城蔵王町には語る。「豪快な走りや次々と相手を抜き去るスタイル。負けん気も強かったけど、私生活では後輩に決して理不尽なことば言わない、優しい先輩だった」と懐かしむ。

仙台市を拠点に競輪選手として活躍しつつ、中学時代から趣味だった鉄道の写真撮影にも熱中。ディーゼル機関車やローカル線が好きで、秋田

同市出身の美智子さん（44）と19年に結婚。美智子さんは「夜空と組み合わせた構図で撮るのが得意で、誰も撮ったことがない場所からの撮影に自信を持っていた。いい写真を撮れた時、心から幸せそうに笑っていた」と語る。

内陸線の四季を写し取ったカレンダーの制作に、15年版から携わった。カレンダーを制作・販売する「くまのたいら企画」代表の大穂耕一郎さん

「69は」山中や旧道に分け入り、シャッターチャンスを狙っていた。どの作品も息をのむほど素晴らしいかと振り返る。

ここ数年、「内陸線のカレンダーのため、俺は写真を撮っている」と口癖のように語っていたという。

来年用のカレンダーの写真は、既に撮り終えていた。生前に撮りためていた写真を用いて、25年以降もカレンダーの販売は続く。（石塚佳池